

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・
立教開宗八百年慶讃事業

ポケットパンフレット



慶讃事業の願い

—本願念仏の教えをいただき、次世代に相続する—

宗門は、2023年、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」(以下、「慶讃法要」)を厳修します。

宗祖親鸞聖人は、法然上人との出会いによって本願に帰し、『顕浄土真実教行証文類』(『教行信証』)を著して、本願念仏の教えが全人類を齊しく救う「真」の「宗」であることを開顕されました。

私たちは、この『教行信証』を立教開宗の書として受け止め、あらためて宗祖が顕かにされた本願念仏の教えをいただきなおすとともに、次の世代に教えを相続していかなければなりません。それこそが、慶讃法要を迎えようとする私たちに与えられた大切な使命です。

そこで、このたびの「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業(以下、「慶讃事業」)」は、2019年から2023年の慶讃法要までのお待ち受け期間、そして法要厳修をはじめ、法要以後の宗門活動をも見据えて、同朋会運動のさらなる推進を図ろうとするものです。

3つの方針

同朋会運動は、「門徒一人もなし」との自己批判から「家の宗教から個の自覚(の宗教)へ」というスローガンを見出し、自らが信心を獲得する運動として出発しました。そして、教団問題を経た宗門は、現在の宗憲を制定するに至ったのです。その宗憲前文には、宗門運営の根幹として「すべて宗門に属する者は、常に自信教人信の誠を尽くし、同朋社会の顕現に努める」と謳われています。つまり、「自信教人信の誠を尽くす人の誕生」こそが宗門の使命であり、それは教えに基づく人と人との交わり、すなわち「聞法者は育む場の回復・創造」においてこそ果たされるものであります。

慶讃法要の意義

—教えに出遇った者の「報恩の営み」—

慶讃法要は、宗祖親鸞聖人の御誕生と立教開宗を慶び讃える御仏事です。

宗祖の御誕生、そして立教開宗を慶び讃えるということは、念仏の教えに出遇い、自らにかけられた願いに深くうなずき、そして、その御恩に報いていく歩みに他なりません。それは、人として誕生した私が、念仏の教え・はたらきに出遇う時、人として生まれたことの尊さに目覚め、生まれて生きることを真に喜ぶことのできる者となる、まさに念仏の教えに出遇った者の「報恩の営み」なのです。

このたびの慶讃法要は、一人ひとりが自らにとっての立教開宗の意味をたずね、本願念仏の教えをいただくかけがえのない大切な「時」と「場」を賜うことであり、自らの聞法生活を問い直し、あらためて念仏申す歩みを確かめていく機縁なのです。

そのことをふまえ、このたびの慶讃事業は、慶讃法要後の宗門の将来をも見据え、一カ寺一カ寺において、そして、あらゆる場において本願念仏の教えに出遇う場が弛みなく生み出されていくことを願い進めていかなければなりません。そのために、次の3つの方針をもってさまざまな施策に取り組んでまいります。

- 1 宗門の基盤づくり—新たな教化体制の構築—
- 2 本願念仏に生きる「人の誕生」と「場の創造」
- 3 あらゆる人びとに向けた「真宗の教え」の発信

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

私たちはみな、歳を取り、病気になり、死をむかえるいのち。誰とも代ってもらえないいのちを生きています。そのようないのちを生きる中で、時として、苦しみや悩みをかかえ、不安に押しつぶされそうになり、生まれたことの意味を問い、たずねたことはないでしょうか。



しかし、そのように自らの根源を問うことさえも、私たちは、善悪、優劣などの日常意識、分別の心から離れられないのです。

人と生まれたことの意味^{まなこ}さえも、人間の眼、人間のものさしで考えていくのでしょ。

このたびのテーマは、そんな私たちに、南無阿弥陀仏という本願の名号、仏さまの願^{みね}いが表わされたその名をとおして、仏さまの願いにふれ、「人と生まれたことの意味」をあらためて問いたずねてほしい、との思いが込められています。

このテーマによって、一人でも多くの方々が、真宗の教えに出遇っていかれることを願っております。

宗務総長 但馬 弘

但馬弘宗務総長による上記コメントの動画を宗派ホームページにて配信しています。

真宗大谷派

検索

<http://www.higashihonganji.or.jp>



法要名称

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要^{きょうさん}

期間

【第1期法要】

2023年3月25日(土)から4月8日(土)まで〈15日間〉

【第2期法要】

2023年4月15日(土)から4月29日(土)まで〈15日間〉

【^{さんごう}讃仰期間】

2023年4月9日(日)から4月14日(金)まで〈6日間〉

基本日程

13時	^{しゅうえ} 集会	14時30分	法話
13時20分	勤行	15時	日程終了

※法要は午後の日程を基本としますが、午前中に変更した日程も数日設定できるよう検討中です。

次第

両堂でのおつとめとし、阿弥陀堂での読経の後、御影堂にて正信偈草四句目下、念仏讃陶三・六首引、回向(同朋唱和)を基本とします。ただし、各期に初中結を設け、期間中には音楽法要(4月1日と16日)を、各期末日は伝統法要式とし、参堂列(儀儀)による稚児行列を行います。

参拝について

真宗本廟でゆっくりとお参りいただけるよう、法要は一日一座とし、境内等においては、展示・催事などを企画・実施します。

参拝席

教区団体参拝席 …………… 1800席 (阿弥陀堂・御影堂)
一般団体参拝・個人参拝席 …… 300席 (阿弥陀堂・御影堂)

※すべてイス席です。

※団体参拝の申し込み方法、座席の決定などについては検討中です。
あらためてお知らせします。

帰敬式の執行

法要期間及び讃仰期間中、帰敬式を執行します。

真宗本廟収骨のお扱い

法要期間及び讃仰期間中においても真宗本廟収骨を受け付けます。

大谷祖廟(親鸞聖人墳墓の地)への参拝

通常どおり、法要期間中においても事前申し込みにより下参道に大型バスを駐車することができます。また、夜間参拝の受け入れも検討しています。

真宗本廟お待ち受け大会・ 本廟創立七百五十年記念大会について

慶讃法要をお迎えするにあたり、宗祖の御誕生と立教開宗を慶讃する意義を確かめるべく、本廟創立750年となる2021年春、真宗本廟において「真宗本廟お待ち受け大会・本廟創立七百五十年記念大会」を開催します。詳細は、あらためてお知らせします。



※2021年は、宗祖が「和国の教主」と仰がれた聖徳太子の1400回忌御正当年にあたることから、期日を定めて法要を厳修します。

※この写真は、宗祖親鸞聖人750回御遠忌お待ち受け大会時のものです。

教区お待ち受け事業と 教区慶讃法要について

教区においては、教区お待ち受け事業を推進します。

教区お待ち受け大会は、真宗本廟お待ち受け大会開催後から、真宗本廟における慶讃法要までの間に開催できるよう、その取り組みを進めます。

また、真宗本廟での慶讃法要厳修後、すべての教区において慶讃法要が厳修され、さらに寺院においても慶讃法要が厳修されるよう、歩みを進めます。

5つの重点教化施策

青少年教化

教師養成

寺院活性化

真宗の仏事の回復

本廟奉仕上山促進

青少年教化 ひとりと出会う

すべての事業が「ひとりの仏弟子の誕生」につながるよう取り組みを進めます。

◆ 子どものつどいの開催・ 青少年教化に携わる人の養成

2023年5月6日(予定)に、「真宗本廟 子どものつどい(仮称)」を開催します。そのつどいに関わるスタッフを、全教区から募集し、事前研修などとおして、青少年教化に携わる人の養成を行います。

◆ 「ほとけの子」の誕生支援

子ども会講習会の拡充、若者教化の場づくり支援、子どもから大人まで親しめる『真宗児童聖典』(仮称)をはじめとした教化教材を制作します。



◆ 池の平青少年センター創立50周年記念事業

新潟県妙高高原にある「東本願寺 池の平青少年センター」は、2023年に創立50周年を迎えます。そこで、今後自然の中の「いのちの学び舎」として利用できるよう改修工事を行います。



教師養成 教学教化をになう

さまざまな教化の現場において、真宗大谷派の教師の使命を十分に果たせるよう、取り組みを進めます。

◆ 教師課程の見直し

僧侶の法話力が厳しく問われ、老病死の現場からは僧侶の聴く姿勢が切実に求められています。そこで、宗派関係学校や真宗学院等の教師養成校において、「法話実習」や「グリーンケア」など、実践的な学びを取り入れます。



◆ 教師資格取得後の研修

教師資格取得後に教学教化の研鑽を深めるための研修制度の構築に取り組みます。

◆ 通信教育制度の検討

教師取得を志す者に対応するため、スクーリングを重視した通信教育制度についての検討機関を設置し、通信教育の試験実施に向けた取り組みを進めます。

◆ 開教区における教師養成

海外開教区(南米・北米・ハワイ)における、教師養成のための英訳・ポルトガル語訳教材を発刊します。併せて、これらを使用した教師養成プログラムの策定や継続した学びの場の確保などの環境整備に取り組みます。

寺院活性化

一カ寺の原点を確かめる

慶讃法要までの4カ年度と法要後の6カ年度、計10カ年度において、寺院への支援活動を行います。

◆ 寺院運営活性化支援

「寺院活性化支援員」を養成し、寺族と門徒がお寺について共に考える「元気なお寺づくり講座」を重点的に実施します。また、別院の活性化に向けた取り組みを進めます。

◆ 過疎・過密地域寺院支援

過疎地や人口流動の激しい都市部において、念仏の教えを伝える場が継承され、創造されていくことを願い、お寺に関わるさまざまな方と話し合いながら「お寺に寄り添う講師派遣」等の取り組みを進めます。

◆ 青少年教化支援

子ども会や若者との出会いの場を新たにつくろうとする寺院・教会を対象に、現場の状況に応じた支援を行います。

◆ 「教区寺院活性化支援室」設置

地域事情に応じたきめ細やかな教化活動の支援が行えるよう、すべての教区への「寺院活性化支援室」の設置を目指します。

真宗の仏事の回復

念仏相続の場を継承する

朝夕のお勤めや報恩講をはじめ、通夜・葬儀・法事などのあらゆる仏事が、御本尊を中心とした仏法聴聞の場として回復していく取り組みを進めます。

本廟奉仕上山促進

真宗門徒の生活を習う

寺院単位や一般向けの本廟奉仕の拡充をはじめ、慶讃法要お待ち受け期間に、慶讃テーマや御誕生・立教開宗についての学びを深める奉仕団や宗祖のご旧跡を巡る奉仕団などを実施します。なお、慶讃法要期間中にも本廟奉仕を募集・実施します。

記念事業について

しょうぎょう へん さん

聖教編纂事業



当派の依りどころとする聖教に関する情報収集、調査・研究を行い、得られた知見を公開し、宗門の教化活動に資する継続的な編纂及び刊行に取り

組むため、2018年7月に「聖教編纂室」を設置しました。

このたびの記念事業として、宗祖の著された『尊号真像銘文』、『一念多念文意』、『唯信鈔文意』などの仮名聖教や、『浄土文類聚鈔』や『愚禿鈔』などの漢文の著作、また『三帖和讃』などについて、本文に加え、読解に資する校異、註釈を付した教師や僧侶の学習テキストの編纂刊行をはじめ、『真宗聖典』第2版及び『教行信証』（坂東本）の延書などの刊行を目指します。



坂東本『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』

真宗教団連合「親鸞展」の開催

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年・真宗教団連合50周年記念事業の一環として、各派が所有する親鸞聖人御真蹟をはじめとする親鸞聖人ゆかりの法宝物などを公開します。

- 主 催：京都国立博物館・朝日新聞社・NHK(予定)
- 特別協力：真宗教団連合
- 時 期：2023年3月から5月の8週間(56日間)(予定)
- 会 場：京都国立博物館

将来を見据えた宗門の基盤整備に向けて

人口減少や人口流動に伴う過疎過密化、家族間の世代間継承が困難になるなど、教えが相続されてきた環境は急速に変わり、寺院を取り巻く状況はさらに深刻化することが予測されています。

そのような著しい社会変化を見据えつつ、教学の振興と教化の推進に軸足をおいた宗務機構への転換を図っていきます。そこで、宗門活動の基となる寺院、組、教区のさらなる活性化を願い取り組みを進めます。

「寺院活性化支援資金」の設置

重点教化施策の一つである寺院活性化の取り組みを、慶讃法要後の6カ年度間、継続して展開するために「寺院活性化支援資金」として確保します。

この資金は、①寺院活性化に向けた支援活動(元気なお寺づくり講座の開催、過疎・過密地域寺院への教化支援、青少幼年教化支援)、②支援員の養成、③各教区における寺院活性化支援室の設置を目指す取り組みの資金とし、一カ寺一カ寺の活性化を目指す取り組みにつなげていきます。



「宗務改革推進資金」の充実

「宗務改革推進資金」は、先の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の際に、「教区及び組の改編」、「門徒戸数調査」、「財政改革」という重要課題を継続して推進するための資金として確保されたものです。

特に、「教区及び組の改編」の取り組みにおいては、これまで各教区が培ってきた歴史や文化、教化の特性や課題を十分にふまえつつ、充実した教化体制の構築が進められています。

このような各教区の取り組みのさらなる推進力となるよう「改編特別給付金」を設定し、新教区の発足とその歩み出しを円滑にしていきます。

教区における教学・教化の基盤整備

(1) 教区教学研鑽機関の整備・充実

各教区において、教化を担う人の養成が図られるよう、教区の自主性を尊重した教学研鑽機関が、すべての教区に設置されるよう取り組みを進めます。

(2) 地方都市教化

人口流動が著しい現代社会への対応として、特に葬儀や法事などの仏事が大切な聞法の機縁となり、離郷門徒との関係性が構築されることを視野に入れ、人口集中が著しい福岡都市圏など地方都市教化の継続的な取り組みを推進します。

2019年度から2022年度の4か年度にわたって慶讃事業に取り組みでいきます。

収入 合計 35億円

特別賦課金 5億676万円

[寺院賦課金 2億444万6,500円]
[僧侶賦課金 3億231万3,500円]

法要厳修年の2022年度に寺院・僧侶に賦課

冥加金 200万円

懇志金 29億9,023万円

教区御依頼額:29億円/企業・団体懇志他

雑収入 101万円

支出 合計 35億円

法要費 4億4,515万円

境内参拝設備費 4億5,000万円

法要設備・境内整備

教学教化費 4億5,990万円

記念事業費 1億円

聖教編纂事業

宗門基盤整備費 8億5,000万円

寺院活性化支援資金繰入金:5億円

宗務改革推進資金繰入金:2億5,000万円

教区教化基盤整備費:1億円

伝道広報費 1億7,500万円

調進費 2億5,760万円

慶讃懇志記念品調製他

教区交付金 1億1,600万円

事務所費 5億1,970万円

人件費・旅費・会議費他

予備費 1億2,665万円

宗祖の御誕生と立教開宗を勝縁とする慶讃事業は、宗門の将来を見据えた取り組みです。

つきましては、お一人でも多くの方々から、この慶讃事業に対する深いご理解と格別のお力添えをたまわりたく、何卒よろしくごお願い申し上げます。

ご懇志はお手次の寺院・教会をとおしてお納めください。

また、真宗本廟(東本願寺)及び大谷祖廟へのご参拝の折にもお受けいたしております。

ご懇志を進納されたすべての方に記念品(ボールペン)を進呈します。進納額が5千円以上の方には、さらに腕輪念珠を進呈します。



● ボールペン
(本体カラー全4色)



● 腕輪念珠

真宗大谷派
東本願寺
higashihonganji
Shinshu Otani-ha

発行：真宗大谷派(東本願寺)
宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・
立教開宗八百年慶讃事業本部事務室

TEL：075-371-9220

FAX：075-371-9218

宗派ホームページ

検索 

<http://www.higashihonganji.or.jp>

